

里だより

No.396

令和7年1月1日

—発行—

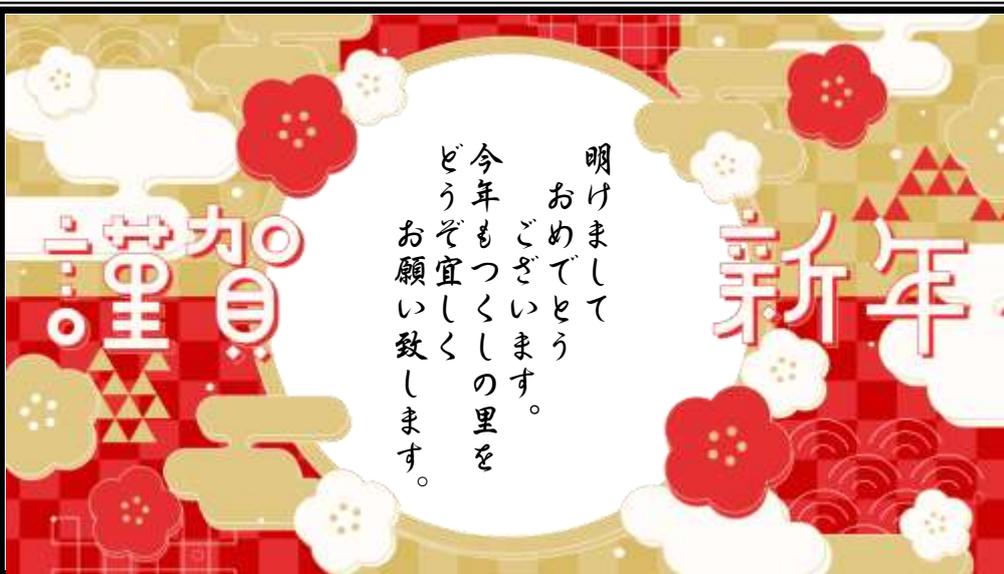
菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



やさしいぱいコンサート
歌って踊って盛り上がりました！！



一月号もくじ



(ページ)

施設長より……………1

業務部より……………2

主任より……………3

職員より・調理場より…4

サービス向上委員会より・

行事報告……………5

出張報告……………7

行事予定・

ありがとうございました・

編集後記……………8



つくしの里 ホームページ <http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

謹んで新年のお慶びを申し上げます

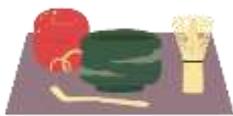


あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になり心よりお礼を申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

仕事は追うものだと頭では分かっているながら、イレギュラーな仕事が増え、知らず知らずのうちに追われていること、日々反省の一年でした。もつと時間の使い方とスケジュール強化を目標に掲げようと思います。事業所としても、半期過ぎたところで事業計画の振り返りを行います。まだまだ不十分どころも多く見られました。下期に改善しながら、必要なものは、令和七年度の事業計画に取り入れていきたいと思っております。

今年の干支は「巳」。カレンダーにも利用者さんが可愛くあしらってくれました。カレンダーのコンセプトは、「好きな○○シリーズ」。利用者さんが好きなものは好きと言える環境は大事だと思っております。支援現場において、日常の中に利用者さんの「好き」を散りばめてくれると、「楽しい」がもつと増え、周囲に伝播するものだと思います。利用者さんの心理的安全性につながってくれ、と支援者としてもうれいのではないのでしょうか。ついでに年男・年女を調べてみたところ利用者さんは十二名。職員は十名でした。以前より、年男年女という言葉が聞かなくなったような気がするのには私だけでしょうか。その年の干支生まれは、他の干支よりも神様からのご加護が受けられると考えられているようです。また、巳年は「再生や誕生・生命力」を意味する年のように

施設 PR 委員会 今月の 1 枚！



茶道の先生の話
真剣に聞くYさん。
美味しいお茶を
たてる事が
出来ました♪

す。つくしの里も三十四年目を迎えます。様々な変化に人は対応することは難しい生き物ですが、マンネリは成長を停滞させてしまふともいいます。新しいことにもチャレンジし、脱皮・再生する年にしたいと思っております。

施設長 松永一博

業務部より

年の瀬



十二月に入った途端、厳しい寒さが続き、平地でもうつつすらと雪化粧する日がありました。現在、つくしの里では、クリスマスマ스에餅つき大会と、一年を締めくくる楽しい行事を準備中です。

さて、法人の令和六年の大きな出来事として、十月に県の指導監査がありました。コロナ禍もあって、令和元年度以来、五年ぶりの実地監査でした。

制度改正に伴う規程の変更や書類整備等、その都度対応してきましたつもりですが、きちんと出来ているか再確認しながら監査資料を作成しました。

今回は、法人と障がい者支援施設、生活介護が監査の対象で、法人・施設の監査資料に加え、法人運営・経理・利用者処遇等の自己点検表、各種規程等を提出しました。職務上、提出する全ての資料に目を通し、修正を確認するため、九月は目まぐるしい日々でしたが、無事に監査を終えることができました。

その後、十一月上旬に監査結果が通知され、障害者支援施設に対する口頭指摘事項、文書指摘事項として、食中毒の予防、まん延防止に関する指針の策定を指摘されました。

指摘事項については、早急に改善し、報告書類を提出済みです。この他、助言メモとして、法人・施設、合わせて十七件の助言をいただきましたので、順次、対応していきます。

話しは変わりますが、つくしの里の年末の風物詩に、カレンダー作成と門松づくりがあります。

カレンダーを年末の挨拶に持参すると「今年もかわいいですね」、「毎年楽しみにしています」等、声をかけていただくこともあり、嬉しくなります。

門松は手づくりで、担当になった職員が寒空の下、竹を切ったり、土を入れたり、四苦八苦しています。その甲斐あって出来上がって正面玄関に飾られると、新年の準備が整ったなど、清々しい気持ちになります。

令和七年は「乙巳(きのと・み)」の年で、新しいものが生まれ、成長していく年と言われているそうです。蛇が皮を脱ぎ捨てて生まれ変わるように、古いものを捨て、新しいものを生み出す年、様々なものが大きく成長し、発展していく年のようです。

新しい年が皆様にとって健康で幸多い年になりますように、お祈り申しあげます。

事務長 光永 明日美



主任より

金



先月の里だよりの主任よりで「今年の漢字」について記載されていきました。その続きではありませんが、十二日に清水寺で二〇二四年の漢字が発表され、今年の漢字は「金」に決まりました。残念ながらご家族の予想は外れました…。

「金」に決まった理由は、五輪での日本人選手の活躍による、光を表す「金」。政治の裏金問題などの影を表す「金」の二つの意味を示しているそうです。二〇二三年は「税」。今年は「金」とお金に関する漢字が続いています。ちなみに「金」が選ばれるのは今回で五回目だそうです。五輪での日本人選手の活躍における「金」はとても嬉しく明るい話題だとは思いますが、影の部分を見てみると二〇二四年は「金」に関わる事が多かった年ではないでしょうか。光熱費や相次ぐ食料品の値上がり。令和の米騒動と呼ばれた、私達の食卓には欠かせないお米の値上がり…。十二月十九日からは、燃料油価格の補助金見直しによりガソリン価格が上がりました。来月には補助率が下がり、さらなる値上げとなる見込みだそうです。

私生活に目を向けると、子どもを連れ駄菓子屋に行く事があるのですが、私の子供の頃は五十円で購入出来ていたお菓子も、今では七十円を超えています。親だけではなく、子どものお財布事情にも影響しているんだなと感じました。

相次ぐ商品等の値上げラッシュは、私達の生活に直結している

部分です。子どもにはたくさん食べてほしいので食事面においてはどうしようも出来ないですが、使っていない電気は消す事や近い距離は歩く等、出来る事は始めています。つくしの里においても値上げラッシュの影響は例外ではなく、光熱費の支出が増加しているそうです。エアコンや照明器具の使用等、必要な部分は適切に使用しながら、出来る事を意識し節電・節水を施設全体で心がけています。

二〇二四年は能登半島地震に始まり相次ぐ災害や事件等、暗いニュースが多かったように思います。二〇二五年の漢字が発表される時、明るい話題が多い一年だったなと思える一年になって欲しいと思います。施設では、十二月から次年度の事業計画の会議がスタートしています。意見や知恵を出し合い、利用者さんの生活が充実するよう取り組んでいきます。

主任支援員 小嶋 健仁



職員より



今回は私の休日の過ごし方についてお話をしたいと思います。つくしの里に入職し、始めは慣れない変則勤務の中で、休日は寝て過ごす日々が多く、1日が無駄にしてしまった・・・と思う事が多かったです。しかし、2年目になると平日休みに出掛けることの優越感に魅了されてしまい、休みの日には家で過ごすことが少なくなりました。1人で人吉までドライブへ出掛けカフェ巡りをしたり、友人と休みの日が合うとランチへ出掛けたりして休日を過ごすようになりました。仕事とプライベートのオン・オフの切り替えを行うことで、「明日頑張ったら休み!」「次の休みはどこに行って、何をしようかな?」と考えることで仕事へのモチベーションも上がります。訪れた先々では「ここに利用者さんと出掛けたら楽しそうだな」「ここは段差があるから〇〇さんが来るには少し難しいかもしれないな」など頭の片隅には常に利用者さんがいます。外出へ出掛ける際には、行き慣れた場所に行くことが多くなりがちですが、今後は違う場所にも少し冒険をしたいと思います。

(支援員 瀬形)

調理場より



つくしの里に入職して12月で10年になりました。思い返せばいろいろなことがありました。台風による停電。夕方まで復旧せず、ランプをかけて食事の準備をしました。平成28年の熊本地震。地震後はスーパーやコンビニからも食料が無くなり、食事はどうなるだろうかと不安の中、毎日がバタバタと過ぎていきました。それから3年ほど続いたコロナ禍。地震の時とは違った大変さがありました。この3つが入職してからつくしの里での重大な出来事でした。反対によかったことは、利用者さんが食事をよく食べられ「おいしかったよ」と笑顔で声をかけてくださいます。10年間続いています。この一言で頑張れます。もちろん「おいしくない」時もあったと思います。その時は、反省し味付け、材料の見直しをします。季節の行事食を取り入れながら食事の準備をすると1年があっという間に過ぎてしまいます。プライベートでは入職歓迎会の時に「箱根駅伝の生観戦」を抱負に述べました。お正月休みをいただき入職4年目に実現しました。昨年、コロナに感染してから運動量が減り、体力、気力がなかなか元に戻りません。利用者さんの笑顔を励みに次の目標達成を目指してもうしばらく頑張りたいと思います。

(管理栄養士 奈須)



サービス向上委員会より



■生活【支援員 外山・後藤・池崎】

利用者さんが健康で快適な生活を送れる事を目標に活動をしています。今年度の取り組みとして毎日、天気や気温を分かりやすく掲示板に掲示することで衣類調整の目安としたり、毎週水曜日は「温泉の日」として入浴剤を使って温泉気分を堪能して頂いています。又、入浴時間をより一層楽しんでもらえるように小型スピーカーを購入しました。聴き馴染みのある曲が流れると笑顔で口ずさんでおられました。

今年度も残り数カ月ではありますが、昨年度好評だった靴の訪問販売を計画中です。足のサイズは個人差があるので、利用者さんが実際に商品を手に取り希望のデザイン・色の靴が見つけれられるようサポートしていきます。

行事報告 ※ 11/21 (木) ~12/20 (金) の実施分について報告いたします

★ やさしさいっぱいコンサート【11月23日(土) 大津町生涯学習センター文化ホール】

本年度も楽しいコンサートを行うことができました。曲も利用者さんの好みをたくさん取り入れてくださって、「この曲知ってるよ～」と一緒に歌って楽しめる利用者さんもうらっしゃいました。

また、アルパ(大きなハープ)の演奏体験など、曲に合わせて楽器を奏でるという普段なかなかできない経験もさせていただきました。参加された利用者さんからも「楽しかった」「感動した」との声がありました。職員としても、利用者さん達の上手な演奏を見て、そんな才能もあったのかと新しい発見に驚きと喜びを感じました。

風邪の流行により参加できなかった利用者さんには残念でしたが、来年は皆で元気に参加したいと思います。

楽しいコンサートも保護者会の皆様のお力添えあつてのことだと思えます。ご協力本当にありがとうございました。
(支援員 池崎)



★ いきいきグループ外出①【11月28日（木）熊本城】

利用者さんから「熊本城をみたい！」と希望があり、外出を計画しました。震災前は砂利道や坂道が多かったのですが、現在は復興途中の熊本城を間近で観覧できるよう特別公開ルートが設置され、車椅子の方でも安心して入城することができました。震災から8年経ち、着々と復興を遂げる熊本城にみなぎるパワーを感じました。すれ違う観光客の方が話すのは、中国語、韓国語、英語…と熊本に居るはずなのに、ちょっぴり異国の地にいるような気分にもなりました。復興ルートは片道350mあります。往復するとやや息が上がりましたが、「運動だ！」と皆さん頑張って歩きました。昼食は城彩苑内のビュッフェレストランで食事を摂りました。料理の種類も多く、満喫した時間を過ごしました。当日は、曇り・雨予報で心配しながらの外出でしたが、いざ熊本城に到着すると晴れ間が見え、むしろ暑いぐらいの気候でした。みなさんの日頃の行いが良かったおかげだと思います。とても楽しい外出となりました。今後も利用者さんの行きたいところ、食べたい物等、希望を聞きながら外出を計画していきます。

(支援員 尾崎ア)



★ いきいきグループ外出②【12月19日（木）メルパルク熊本】

メルパルク熊本レストランパールに食事に行きました。皆さんおめかしして出かけました。ホテルに着くと、玄関にクリスマスツリーとくまモンが飾られていて、それを見た利用者さんから笑顔が見られました。レストランで料理が運ばれてくると、皆さん緊張からか、静かな食事のスタートとなりました。コース料理で、前菜、魚料理、肉料理と次から次に運ばれてきて美味しいと食べられていました。盛り付けの綺麗さにも驚きましたが、種類の多さにも驚きました。職員も食べきれないほどでした・・・が、利用者さんはペロリッと完食でした。レストランスタッフの方もとてもよくして下さって、帰りには「またのお越しをお待ちしています。」と見送っていただきました。皆さん楽しんで食事をされたので、機会があったらまた行きたいなと思います。帰りは、お腹一杯と言う事もあり、静かな車内でした。(熟睡でした。)

(支援員 山田)



研修報告 ※ 11/21 (木) ~12/20 (金) の実施分について報告いたします

◆障害者虐待防止研修【11月22日(金) くまもと県民交流館パレア】

「事業所内で起こった虐待事案や不適切事案について」「事業所での虐待防止の取り組み、管理者としての関わり」「事業所の虐待防止をワンランク上げるには」という内容のグループワークを行いました。事業所間で虐待の捉え方も様々でしたが、共通して言えることは、個々が「小さな出来事」を意識して考える事が大切だと言うこと。また、不適切な支援を薄いグレーとするならば、濃いグレーにならずともグレーはどこまでもグレーであり、白にはならない。グレーゾーンを虐待の「芽」だと考えると、それはもう虐待の一部であり、「芽」には「根」があり「土」があるため、管理者は土壌に目を向けること、風土に目を向け、働きやすい、風通しの良い職場づくりに努めることが急務であるということを念頭に業務にあたると共に、現場で共有しようと思います。(主任支援員 長淵)

◆リスクマネージャー養成研修会【11月27日(水) ~29日(金) 東京都 TOC 有明コンベンションホール】

「リスクマネジメント」「虐待防止」「危険予知(KYT)」「苦情対応」「モチベーション」と様々なリスク対策に向き合うための研修でした。どこの事業所においても同じような共通課題を抱えており、対応の難しさがあることを改めて感じました。

今回の研修では特に事業所内の事故防止策、苦情、虐待といった当施設内でも欠かすことのできない課題に対してグループワークを交えて話を行ってきました。「事故は誰でも起こすものであり、その後の素早い対応・対策が大事」とのこと。研修内容は報告書を提出しますが、それだけでは伝えきれない内容ばかりでしたので会議を通じて職員へ報告していきたいと思います。

研修場所は東京都でしたが、全国から100名近くの参加者がおられ久しぶりの集合研修に圧倒されました。研修会場の高層ビルからの眺めは圧巻。研修終了後は夕方でしたが夜景がとてもきれいで多くの方が写真に収めていました。私自身のモチベーションにもつながり、今後の業務にしっかり活かしていきたいと改めて感じました。(支援員 北島)

◆第12回障害者支援施設部会全国大会中国地区大会【12月19日(木)・20日(金) 広島国際会議場】

職員3名で参加させて頂きました。2024年度の報酬改定を機に、障害福祉サービスの重要な柱として、共生社会の実現に向けた本人の意思決定を支援する事が、私達支援者の重要な使命となった事。入所施設の専門性やその存在意義、役割について実践を通じて見直し、障害のある方々にとって共生社会をどのように推し進めていくか考える大会でした。

1日目は、行政説明、「障害者にとっての意思決定支援と共生社会」、シンポジウム「共生社会に向けた意思決定支援のあり方」～障害者支援施設の取り組むべき要素、進むべき方向性～の講演がありました。

2日目は各分科会に分かれ、実践を通じた各事業所の取り組みを聞く事が出来ました。

様々な話があり、一支援員として考えさせられることが多くありましたし、学ぶことも多く、聞いた話の中で、印象的だったものを1つ挙げると、「利用者の安心・安全をと言っているが、結局は職員の安心・安全になっていないか。自分がこの施設で支援を受けたいのか、今一度皆さんには考えてもらう機会としてもらいたい」とありました。

私達支援員が利用者の皆さんと何が出来るのか、毎日を笑顔で過ごしていくにはどうすればよいのか、様々な視点から考えていきたいと思います。(支援員 松尾り)

行事予定

☆ 参拝・新年会（日吉神社・つくしの里）

期 日：1月6日（月）

内 容：職員の代表者で無病息災等を祈願してきます。



☆ 生活介護⑤班外出（菊陽町・ゆめタウン光の森他）

期 日：1月22日（水）

内 容：外食と買い物で一日をゆっくり満喫したいと思います。



ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和六年十一月二十一日～

令和六年十二月二十日です



【寄付・寄贈】

- ・浅山 愛郎 様
- ・岩根 麻由美 様
- ・坂田 昌子 様
- ・廣瀬 悦美 様
- ・古庄 房年 様
- ・渡辺 昭子 様
- ・小竹組 様
- ・三協化研 様
- ・一般社団法人すまいる 様
- ・徳治会歯科医院合志 様
- ・ボランティア
- ・トキコロ 様
- ・丸尾 典子 様
- ・木本 ふじ子 様
- ・井本 チカ子 様
- ・清田 すま子 様
- ・中島 茂 様
- ・藤野 幸子 様
- ・山本 清隆 様
- ・福岡酸素 様
- ・居屋敷の里 様
- ・まんしん未来 様
- ・カモメ 様
- ・村里 和洋 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



編集後記

早いもので令和も七年目に突入しました。コロナの流行や物価の値上げ、地震に戦争と明るい出来事より暗いことが目立ちました。今年はずっと明るい出来事が多くあることを期待したいと思います。
令和の由来通り「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」ことを祈るばかりです。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

～職員研修(施設内)～

《感染症研修》熊本セントラル病院の保健師さんから
吐物処理について改めて教わりました。



《消防機器研修》もしもの火災に備えて消防機器の使い方など教わりました。

